

令和3年新年のご挨拶

毛呂山町長 井上健次

「やさしいまち もろやま」を目指して



桂木ゆずのシンガポールへの輸出の取り組みを始めています

7千220万人が感染し、亡くなられた方も163万人を超える事態となっております。(令和2年12月16日現在)

新型コロナウイルスによって尊い命を落とされた皆様のご冥福をお祈りし、感染によって療養されているすべての皆様にお見舞いを申し上げます。

町では、令和2年6月に第1弾、9月に第2弾となる「毛呂山町独自の緊急支援事業」を実施し、町民皆様が新型コロナウイルスに感染しないためのご協力をお願いして参りました。

しかしながら、新型コロナウイルスは一向に衰えることもなく、昨年11月頃より第3波と言われているように感染者は増加の一途となっております。

町民皆様におかれましては、町より全戸に配布させていただきました「新しい生活様式」を実践していただき、新型コロナウイルス

に感染しないための更なるご協力をお願いいたします。

さて、人類と新型コロナウイルス感染症との闘いは真つ只中ですが、コロナ禍の令和3年の毛呂山町を発展させるには町民皆様との今まで以上の「協働のまちづくり」が必要であり、人口減少や少子高齢化に加えて新型コロナウイルス感染症による税収減と負担増を覚悟する行政運営となります。

この現実を受け止め、機構改革及び公共施設の見直しや民間の力をお借りしての官民連携事業など大胆な行財政改革と、計画的な選択と集中による効率的な町政運営を進めて参ります。

着手した事業がしっかりと実を結ぶためにも、令和3年は正念場の年となります。今後とも町民皆様の温かいご支援とご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本年の年頭のご挨拶といたします。

令和2年 主な出来事と新規事業

1月・「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」毛呂山町出身選手支援会発足式が開催される。

3月・個人番号カード（マイナンバーカード）を使い、全国のコンビニエンスストアなどで住民票などの証明書を取得できるようになる。
・スマートシティ事業の二環として目白台地区で自動運転バスの実証実験が行われる。

・毛呂山消防団に新たな本部車両が配備される。
・町内の小中学校が5月末まで臨時休校となる。

4月・もろつ子はぐくみ応援金事業がスタートする。

・川角小学校の南校舎1階に「川角第二・第二児童保育所」が開所する。
・全国に緊急事態宣言が発令される。

6月・新型コロナウイルス感染症対策として第二弾の毛呂山町独自の緊急支援事業が行われる。
・町と麻原酒造(株)により「災害に強いまちづくり協定」が締結され、併せて同社より手指消毒液が町に寄附される。

町を動かす各施策の重点とする内容をお伝えいたします

里山の環境を活かした

都市基盤を創る

- スマートシティ事業の推進
- 道路整備計画を基本とした生活道路の整備
- 西大久保地内の変形交差点改良事業の推進
- 企業誘致活動の推進
- 川角駅周辺地区整備事業については協議会の設立により推進
- 野久保線周辺地域においては、都市計画法34条11号区域指定が完了し、活性化エリアとして土地利用を推進

安全で快適なまちを創る

- 集団資源回収事業や家庭用生ごみ処理機器補助制度等によりごみ減量化を推進
- 道路標示及び道路反射鏡設置整備の推進
- 防犯カメラ設置に向けた調査研究を推進
- 苦林地区及び岡本団地に面した越辺川の堤防改修及び河川改修を県施工で実施
- 新しい生活様式に対応する避難所の備蓄整備を拡充
- 水道事業における経営基盤の強化、計画的な老朽管の更新による耐震化の推進

健やかで安心に

暮らせるまちを創る

- 民生・児童委員や自治会との連携による地域見守りネットワーク体制の充実
- 8050問題など、孤立化・潜在化した問題に対応できる相談支援体制構築の推進
- 後期高齢者健康診査の無償化の推進
- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施
- HAPPINESS館との連携によるフレイル対策
- 特定健康診査での自己負担無料化の推進
- 予防接種事業の実施による感染症予防の推進
- 「子育て世代包括支援センター」を中心とした母子保健事業の充実
- 「子育て支援センター」、子育て支援室」における子育て相談支援の充実

活力と夢のある産業のまちを創る

- 鎌北湖堤体耐震補強工事が今年度中に完了予定、その後貯水を開始
- 苦林・大類耕地における多面的機能支払交付金事業に基づく活動組織の設立
- 桂木ゆずのブランド化の推進
- 独立した観光事業を推進するために、町観光協会法人化の推進

豊かな心と学びのある

まちを創る

- 1人1台学習用タブレット端末（GIGAスクール構想）を活用した授業を実施
- 2中学校区で義務教育9年間を見通した小中一貫教育を実施
- 埼玉医科大学と連携した「がん教育」の実施
- 学校運営協議会による開かれた学校づくり（コミュニティ・スクール）を推進
- コロナ禍のなか、芸術・文化活動などをケーブルテレビ等を活用して幅広い発表の場の確保

みんなで築くまちを創る

- 行財政改革、組織機構改革の推進
- 広報・広聴活動について、SNS等の積極的な活用
- 住民の行政への参画機会の拡大
- スマートフォンアプリの活用による納税環境の充実
- コロナ禍の影響に配慮した上で、徴収業務の強化
- 町有地の資産価値を見直し、未利用地の売却等を推進
- 東京2020オリンピック競技大会における町出身選手支援会を中心とした応援体制の整備

7月

・苦林地区において土壌設置による溢水対策工事を実施する。

8月

・新型コロナウイルス感染症対策の避難所開設訓練を実施する。
・岡本団地北側において大型土嚢設置による溢水対策工事を実施する。

9月

・埼玉医科大学病院が「救急功労者表彰（総務大臣表彰）」を受賞する。

・町内循環バス「もろバス」の車両が新しくなる。

・新型コロナウイルス感染症対策として第三弾の毛呂山町独自の緊急支援事業が行われる。

10月

・スマートシティ事業の二環としてA1を用いた道路・河川見守りカメラの実証実験が始まる。

・地域振興や事業投資に取り組むまちづくり会社「もろやま創成舎」が設立される。

・毛呂山小学校6年生の植田杏さんがホープスナショナルチーム（年代別卓球日本代表）に選出される。

11月

・東日本実業団駅伝大会で埼玉医科大学グループ男子駅伝部が10位となりニューイヤースタッフの出場権を獲得する。